

オルガン・1ドルコンサート atHome

－ 10月1日配信 プログラム♪－



東方理紗 Risa TOHO

東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。安宅賞、アカンサス音楽賞受賞。東京藝術大学「宮田亮平奨学金」受賞。第2回「長崎で教会音楽を」オルガンオーディションにて最優秀賞受賞。2017年に東京藝術大学・韓国芸術総合学校交流演奏会、2019年に第46回日本オルガニスト協会新人演奏会に出演。2019年に藝大モーニングコンサートにおいて藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。これまでにオルガンを松浦光子、近藤岳、廣江理枝、通奏低音を椎名雄一郎、即興演奏を近藤岳、チェンバロを廣澤麻美の各氏に師事。

現在、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程在学中。横浜みなとみらいホール ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム第18期生。日本オルガニスト協会会員。

◆ C. サン＝サーンス: 《動物の謝肉祭》より 〈白鳥〉

Charles Camille Saint-Saëns (1835-1921) : "Le Cygne"

from "Le Carnaval des Animaux"

《動物の謝肉祭》は、サン＝サーンスによって作曲された14曲からなる室内楽のための組曲で、登場するそれぞれの動物たちをユーモラスに表現しています。〈白鳥〉は単独で演奏されることの多い不朽の名作です。さざ波のようなピアノ伴奏に乗せてチェロの旋律が美しく奏でられます。優雅で美しい白鳥の姿が描写されている作品です。

◆ L. ヴィエルヌ: 《オルガン交響曲第6番》より 第5楽章 〈終曲〉

Louis Vierne (1870-1937) : Final de la 6ème Symphonie, Op. 59

フランスの作曲家ヴィエルヌによる《オルガン交響曲第6番》は彼の最後のオルガン交響曲で、1930年に作曲された全5楽章からなる作品です。第5楽章は、祝祭的で輝かしい終曲で、ファンファーレのようなモチーフとティンパニーを思わせる力強いペダル音型が登場します。中間部ではコラール風の旋律が歌われ、終盤では駆け巡るようなペダル音型とともにコラール風の旋律が高らかに歌われ、華々しく最後を締めくくります。